

製品名: Op18 (リン酸化Ser38) ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab05136**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	人間、マウス、ラット、サル
標識	非共役
修飾	リン酸化
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:10000-1:20000
分子量	18kDa

抗原情報

遺伝子名	STMN1
別名	STMN1; C1orf215; LAP18; OP18; Stathmin; Leukemia-associated phosphoprotein p18; Metablastin; Oncoprotein 18; Op18; Phosphoprotein p19; pp19; ProsoLin; Protein Pr22; pp17
遺伝子 ID	3925.0
SwissProt ID	P16949
免疫原	抗血清は、ヒトスタスミン 1 の Ser37 のリン酸化部位付近の合成ペプチドに対して作製された。 アミノ酸範囲: 5-54

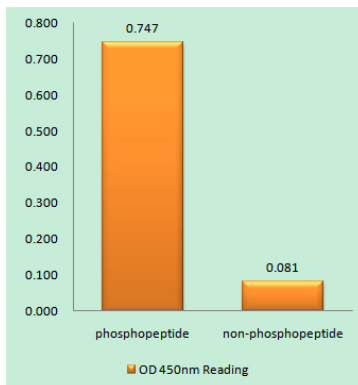
背景

この遺伝子はスタスミンファミリーに属する。細胞内環境の調節シグナルを統合する細胞内リレーとして機能することが示唆されている、普遍的な細胞質リン酸化タンパク質をコードしている。コードされているタンパク質は、微小管を不安定化させることで微小管フィラメント系の制御に関与する。微小管の組み立てを阻害し、分解を促進する。この遺伝子には、異なるアイソフォームをコードする複数の転写産物バリエーションが見つかっている。[RefSeq 提供、2009年2月]、疾患：急性白血病患者の細胞には、正常末梢血リンパ球、非白血病性増殖性リンパ球、骨髄細胞、または慢性リンパ性白血病もしくは骨髄性白血病患者の細胞よりも、異なるサブタイプの急性白血病患者の細胞に非常に多く存在する。機能：微小管を不安定化させることで、微小管 (MT) フィラメント系の制御に関与する。微小管の組み立てを阻害し、分解を促進する。Ser-16 のリン酸化は、神経新生における軸索形成に必要である可能性がある。学習性および生得的な恐怖の制御に関与する。PTM：リン酸化可能な部位の特定の組み合わせに応じて、多くの異なるリン酸化形態が観察される。MAPK は、NGF に応答してスタスミンのリン酸化を担う。Ser-16 のリン酸化は、ニューロンの分極に必要であると思われる (類似性による)。Ser-63 のリン酸化は、チューブリン結合を 10 分の 1 に減少させ、微小管重合阻害活性を抑制する。類似性：スタスミンファミリーに属する。サブユニット：2つの α/β -チューブリンヘテロダイマーに結合します。KIST と相互作用する。組織特異性：遍在性。発現は胎児および成人の脳、脊髄、小脳で最も強く、次いで胸腺、骨髄、精巣、胎児肝臓で強い。結腸、卵巣、胎盤、子宮、気管では中程度の発現レベルであり、検査した他のすべての組織では、かなり低いレベルで容易に検出される。最も低い発現は成人の肝臓で認められる。

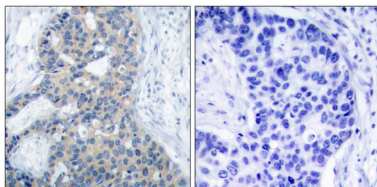
研究分野

MAPK_ERK_成長;MAPK_G_タンパク質;

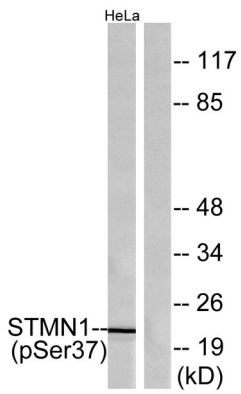
画像データ



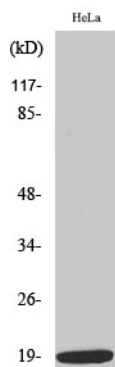
スタスミン 1 (リン酸化 Ser37) 抗体を用いたリン酸化ペプチド (リン酸化左) および非リン酸化ペプチド (リン酸化右) 免疫原の酵素結合免疫吸着測定法 (リン酸化 ELISA)



スタスミン 1 (リン酸化 Ser37) 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト乳癌の免疫組織化学染色。右の写真はリン酸化ペプチドでブロッキングした状態。



ノコダゾール処理した HeLa 細胞ライセートの、スタスミン 1 (リン酸化 Ser37) 抗体を用いたウェスタンブロット解析。右レーンはリン酸化ペプチドでブロッキングされている。



リン酸化 Op18 (S38) ポリクローナル抗体を用いた様々な細胞のウェスタンブロット解析